

巻頭言

学 長 江川 隆子

本学は開学15年を迎え、看護師国家試験において96～98%の合格率を維持しながら順調に卒業生を送り出しています。平成25年度に開設した大学院も本年度は新型コロナウイルス感染症の影響で臨床における研究が出来ずに苦戦しておりますが、毎年3～4名の修了生を送り出しています。こうした状況は、常日頃から教職員一丸となった看護カリキュラムの見直しをはじめ、教育向上のためのFD研修強化、研究支援のための研究日取得制度の実施など、ひとつひとつ課題を乗り越えながら教育運営に当たっている結果であると評価しています。

2016年度には文部科学省が主宰する私立大学研究ブランディング事業に採択され、教職員一同、この4年間尽力してきました。事業目的は、行政・市民・支援団体が一体となり、日本遺産淡路島の資源（ヒト・文化・自然）を活用した「セラピーアイランド淡路島」構築の研究・活動拠点を本学に創設すること、それを基盤とした人的・文化的交流を推進することで地域住民の健康増進を図り、地域経済の活性化に寄与すること、そして本学を研究拠点とした本事業の研究活動成果を基に、セラピーと看護を融合した看護実践能力向上につながるカリキュラムを開発することでした。2020年3月にこれらの成果報告会を計画していましたが、新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により残念ながら中止となりました。

しかしながら本事業を通して得た成果は、今後も本学の「ブランド」として発展してゆくと信じています。そして、今後も継続的に「セラピーとなる資源」の発掘・検証・製品開発、更にはカリキュラムへの導入など、発展的に取り組んでいきたいと考えています。

ところで、兵庫県淡路市の高齢化率は2015年時点で36.2%であり、高齢化率推移予測によると2045年までには46%に達し、2人に1人が高齢者になると見込まれています。これは全国平均より約10%上回った数値です。淡路島の認知症及びその予備軍への対策は喫緊の課題です。そこで本学は、認知症患者に携わる看護師に専門的知識・技術の習得のための「認知症患者に係わる看護師養成研修機関」を開設しました。しかしながら本年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い講義も遠隔が中心となり、こうした事業の多くは中止を余儀なくされた1年でした。

来年度からは新型コロナウイルス感染症を乗り越え、こうした本学の一連の取り組みが淡路島全域の医療・保健・福祉の充実に寄与することが期待されるだけでなく、淡路島全域の地域活性の原動力としての役割を担うことをも期待されるものと考えます。このように、本学は徐々に、しかし確実に、大学のブランディングを向上するとともに、淡路島並びに兵庫県内の医療福祉にさらなる貢献が期待できる看護大学として発展しています。